ポスター
セッション

平成 25 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラムＡ

【ポスター（１）】　　団体名：　ＳＩＬ　札幌日本語学校

＜団体紹介＞

1992 年より少人数制の日本語指導を市内中心部にて開始。学習者のニーズに合わせたビギナーから上級者対象のカリキュラムを展開し、日本の社会で通用するコミュニケーション力を磨く。春夏秋冬の集中コース、ワーホリの日本語集中コース、プライベートレッスンなどコースは多彩。特に夏期集中コースでは様々な国からの学習者が集まる。一般の日本人と出来るだけ接触し、日本人に対する理解をより深くするため、町内会のイベントにも参加し、日本人の生活や慣習を身近に経験する。ホームステイ、ランゲージパートナーの紹介もある。

平成 21 年度より毎年文化庁の日本語教育事業を受託し、外国人が大人も子供も日本の社会でより快適に過ごせるよう、工夫を凝らした活動を続けてきた。講座の開催場所は昨年度は札幌市、千歳市、倶知安町、旭川市の計 4 か所。親子の講座には、日本語ボランティア養成講座を受講した人たち、日本語教育を専攻している大学院生、当校の日本語学習者なども参加し、外国籍の子供たちと触れ合いながら学習を進めることも多い。平成２５年度から（公財）札幌国際プラザが事業の共催をしてくださり、講座開催場所、募集案内周知に協力をいただいたおかげで、よりスムーズにこの事業を展開することができるようになった。

住所　〒060-0062　札幌市中央区南２条西１８丁目２９１　ベル医大前１Ｆ
Tel/Fax　011-614-1101
E-mail　：　info@silnihongo.com　　silshima@yahoo.co.jp
ホームページ　：　www.silnihongo.com

「日本語教室」

「養成・研修―講演」

「養成・研修」

「日本語教室」

「日本語教室―倶知安会場」

ポスターセッション

平成 25 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラムＡ

## 事業実施概要

| | |
|---|---|
| **事業名称** | 北海道における日本語教育推進プロジェクト　―　地域多文化共生を目指して２０１３ |
| **地域の課題** | 札幌市の外国人定住者の数は約 9 千人強で推移している。集住地域というものがないため、ある程度の人数をまとめての指導がしづらい。又札幌市内には日本語ボランティアグループは多いが、活動ができる人が限られているようである。 |
| **事業の目的** | 日本語学習と日本での生活の情報を正しく得る機会に恵まれない人々（地方在住者を含む)、又、来日しすぐに教室で生活をしなければならない子どもたちに、生活に基づいた幅広い視点からの日本語指導の適切な機会を提供する。 |
| **事業の概要** | **日本語教育の実施** |
| | 名称：「親子で学ぼう日本語（生活の日本語)」：札幌会場・千歳会場<br>「防災・傷病時の日本語」：倶知安会場<br>目的：基本的な生活のための日本語と日本の習慣に慣れてもらう。<br>対象：札幌市内・千歳市内外国人親子；倶知安町近辺の外国人生活者<br>人数：　54　人（主な出身・国籍：ボリビア，オーストラリア，日本，アフガニスタン、メキシコ、フランス，カナダ、シンガポール，イギリスなど 17 カ国）<br>時間：104 時間（全 62 回）<br>内容：札幌：生活の日本語とマナー（食事、街のサイン、訪問）<br>倶知安会場：傷病時・防災の日本語　　千歳会場：基本の日本語 |
| | **日本語教育を行う人材の養成・研修の実施** |
| | 名称：あわてないで教えよう 2013　札幌、千歳、倶知安、旭川各会場<br>目的：やさしい日本語を使ってあわてないで手助けをする<br>対象：生活者としての外国人に対するボランティア活動を希求する一般市民、町民<br>時間：　33　時間（全　14　回）<br>人数：　71 人（出身・国籍：日本　）<br>内容：暮らしの知識（防災・食の問題・通院時など）の確認と日本語の教え方の基本（やさしい日本語を使う）をワークショップ形式でともに学んだ。 |
| | **日本語教育のための学習教材の作成** |
| | 名称：「お弁当を作ろう」「チラシを読もう」<br>目的：日本のお弁当を作る。学校のお便りや町内のチラシを理解する。<br>対象：日本語ボランティア、外国人生活者<br>構成：「お弁当を作ろう」「チラシを読もう」　全　39 ページ |
| **成果と課題** | 子どもたちには夏冬休みの生活のリズムにもなり、日本語に慣れると同時に笑顔と発話が多くなった。地方ではボランティアがどのように活動をしたらいいのかわからないという声があり、自治体への働きかけも必要と思われる。又外国人（の親子）を身近でサポートするグループが必要だが、誰がまとめるかも要検討ではないだろうか。 |
| **発表者から一言** | 教材作成では地域に根差した内容も取り入れ、その中で漢字の識別もできるよう工夫してみました。東北地方の方々には使ってもらえるのではと思います。 |